

1 be 動詞の文

◆指導ページ P.2 ~ 7◆

【指導のねらい】

- ★ be 動詞の基本的な用法をマスターし、使い分けできるようにさせる。
- ★ be 動詞の否定文や疑問文の作り方、答え方をマスターさせる。
- ★ 名詞の単・複、複数形の作り方をマスターさせる。

指導のポイントと板書例

1 be動詞の文

be 動詞の意味…「～である」「～がいる(ある)」の2つの意味をしっかり覚えさせる。

板書例	be 動詞の意味
	I am a student. 「私は学生です。」 ※この場合、I = a student の関係がある。
	I am in the park now. 「私は今、公園にいます。」 ※この場合、be 動詞の後には、場所を表す語句が続く。

用法…主語によってbe動詞を使い分けられるかを確認する。

板書例	主 語	be 動詞	例 文
	I	am	I am Ken.
	you と複数	are	You are students.
	3 人称単数	is	He is my father.

※1人称(話し手), 2人称(聞き手), 3人称(その他)についても簡単に確認しておきたい。

※主語が人称代名詞の場合の使い分けを詳しく説明しなければならない場合は、テキストP2の表を用いる。このとき、以下の点に注意させること。

- ① 主語が複数の場合
(例) Bob and I am ~とする間違い。
Iの後なのでI am と続けてしまう。

- ② 主語が代名詞のみではない場合
(例) Are your sister ~とする間違い。
your を you と勘違いしてしまう。

※主語による be 動詞の使い分けを十分に理解できていない生徒には、徹底して指導したい。特にどのような場合に is を使うのか(3人称単数の名詞)をどう覚えさせるかがポイントである。

- (例1)『I, you 以外の単数はすべて is』と教える。
(例2)『I am, You are, その他は is』(ただし単数のみ)と、繰り返し口に出して覚えさせる。
テキストの問題以外にも、黒板にいくつか問題を書いて考えさせるのもよい。

確認ドリルについての留意事項 P2

確認ドリル 2
(2) 「～出身です」というときは、be from ~ の形で覚えさせる。また、be は be 動詞(is, am, are)の原形であることにも注意させる。

2 be動詞の否定文

否定文の作り方…be動詞の後にnotを入れる。また、is not = isn't, are not = aren't, I am = I'm, you are = you're などの短縮形も指導する。

板書例	否定文の作り方
	(肯) We are Japanese. 「私たちは日本人です。」
	(否) We are not Japanese. 「私たちは日本人ではありません。」 aren't

3 be動詞の疑問文

疑問文の作り方と答え方…be動詞を主語の前に出すことを確認。クエスチョンマークの書き忘れに注意させる。答え方については、主語は必ず代名詞にすること、また、適切なbe動詞の使い方に注意させる。

板書例	疑問文の作り方
	(肯) Aki is your friend. 「アキはあなたの友達です。」
	(疑) Is Aki your friend? 「アキはあなたの友達ですか。」
	(答) Yes, she is. / No, she is not. (=isn't)

※名詞→代名詞の置きかえ方(特に複数名詞の場合に注意)
男性を表す名詞 → he 女性を表す名詞 → she
その他の名詞 → it 複数の名詞 → すべて they

確認ドリルについての留意事項 P4

確認ドリル 10
(3) your name は、答えるときは it に置きかえることを確認しておきたい。

4 名詞の複数形

数えられる名詞は必ず単数と複数とを区別することと、複数形の作り方を説明する。作り方はp5 4の表を使って説明する。不規則に変化する名詞(man → men など)や単複同形(Japanese など)、数えられない名詞(music, Japan など)があることもここで触れておきたい。

板書例	①ふつうは-sをつける students bags colors など
	②名詞の語尾がs, x, ch, sh, o → -esをつける buses boxes など
	③名詞の語尾が<子音字+y> → yをiにして-esをつける families など
	④名詞の語尾がf, fe → f, feをvに変えて-esをつける wives など

※例外…② pianos など。④ roofs など

演習問題についての留意事項

- 2 「～です」と訳す文と、「～にいます、あります」と訳す文の区別を付けさせる。
- 4 (1) 主語は「あの少年」で、that boy とひとまとまりになることに注意させる。
- 4 (4) <my + 形容詞 + 名詞>の順になることについて簡単な説明を加えておきたい。
- 6 (3) be動詞が変わるだけでなく、guitar が guitars と複数形に変わることにも注意させる。
- 8 (2) 代名詞所有格 your と、所有代名詞 yours の説明も加えておきたい。

2

一般動詞の文

【指導のねらい】

- ★一般動詞の基本的な用法をマスターし、主語による動詞の使い分けができるようにさせる。
- ★一般動詞の否定文や疑問文の作り方、答え方をマスターさせる。

指導のポイントと板書例

1 一般動詞の文

一般動詞…be 動詞以外の動詞であることを確認する。このとき、be 動詞の文と一般動詞の文の訳し方の違いや、be 動詞と一般動詞は1つの文でいっしょに使えないことも確認しておきたい。

板書例	be 動詞の文	I <u>am</u> a student.
		主語 動詞
	一般動詞の文	○ I <u>play</u> basketball.
		主語 動詞 目的語
		× I am <u>play</u> basketball.
		主語 動詞 目的語

2 一般動詞の文(3人称単数)

主語が3人称・単数のときは、動詞の語尾に-sや、-esをつけることを徹底して指導したい。

板書例		be 動詞の文	一般動詞の文
	1人称	単数 I am ~.	I like ~.
		複数 We are ~.	We like ~.
	2人称	単数 You are ~.	You like ~.
		複数 You are ~.	You like ~.
	3人称	単数 He is ~.	He likes ~.
	複数 They are ~.	They like ~.	
	一般動詞の肯定文		
	I like soccer. 「私はサッカーが好きです。」		
	↓ ↓	He likes soccer. 「彼はサッカーが好きです。」	

※ be 動詞の文で is を用いる主語(3人称・単数)は、一般動詞の文では -(e)s がつくことに気づかせる。

3単現の -(e)s の付け方…テキスト P 9 の表を参考にして、間違えそうな単語を例に挙げて説明する。下に注意すべき -(e)s の付け方をいくつか挙げる。

- go → goes use → uses
- study → studies watch → watches
- have → has

3 一般動詞の否定文

一般動詞の前に、主語に合わせて do not[don't]か does not[doesn't]をおき、〈主語+ don't[doesn't]+動詞の原形〉の形にすることを確認。主語が3人称・単数の場合と、それ以外の場合の両方を対比させて説明するとよい。

板書例	① We know his name.
	↓
	(否) We don't know his name. (do not)
	② She knows his name.
↓	
(否) She doesn't know his name. (does not)	

まず①の例文を挙げて、これを否定文に変える。

次に①の例文の主語を変えて②の文を作り、同様に否定文に変える。このとき、doesn'tを用いると後の動詞が原形になることを強調する。

4 一般動詞の疑問文

Do[Does]を主語の前に出し、〈Do[Does]+主語+動詞の原形~?〉の形になることを確認。具体例は、前述の否定文のように、Doを用いる場合と Doesを用いる場合の2つを対比させて説明するとよい。クエスチョンマークの付け忘れに注意させる。また、答え方も重要なので、説明は丁寧に。

板書例	① You live in Tokyo.
	↓
	(疑) Do you live in Tokyo?
	(答) Yes, I do. / No, I don't.
	② She lives in Tokyo.
	↓
(疑) Does she live in Tokyo?	
(答) Yes, she does. / No, she doesn't.	

否定文のときと同様に、まず①の例文を挙げて、これを疑問文に変えて、その答え方を説明する。

次に①から②の文を作り、疑問文に変えて(Doesを用いると動詞は原形になる)答え方も説明する。

答え方については、以下の点に注意させる。

- ① be 動詞の答え方と同様に、主語は代名詞に置きかえて答えること。
- ② Do できかたたら do を使って答える。同様に、Does できかたたら does を使って答える。

※疑問文のイントネーションについて

第1講の be 動詞の疑問文も同様だが、疑問詞を用いず、Yes / No で答えられる疑問文は、文尾を上げ調子で読むことも確認したい。

演習問題についての留意事項

- 2 (4) well で「上手に」の意味。well と good の違いにも触れておきたい。
- 4 (1) like ~ very much で「とても～が好きだ」となることを確認する。
- (3) 基本的には「だれが」「どうする」「何を」「どこで」「いつ」の語順になることを、この問題を利用して説明したい。
- 6 (1) dinner や lunch など食事の名称にはふつう冠詞がつかないことも確認しておく。
- 7 (1)~(3) 講座内容の定着度を確認するうえで重要な設問。動詞を書くときに注意すべきポイントの1つが、主語の人称・単複の確認であることを強調する。
- (4)~(6) よく出る書きかえなので、丁寧に指導したい。

4

現在進行形

◆指導ページ P.20 ~ 25 ◆

【指導のねらい】

- ★現在進行形の意味と基本形をマスターさせる。
- ★現在進行形の否定文や疑問文の作り方をマスターさせる。

指導のポイントと板書例

1 現在進行形の文

〈be 動詞 + 動詞の～ing 形〉で表すことを確認する。このとき、主語による be 動詞の使い分け、動詞の ing 形の作り方に注意させる。

現在進行形…〈be 動詞 (am, are, is) + 動詞の～ing 形〉

主語	be 動詞	～ing 形
I	am	～ing
3 人称・単数	is	
you と複数名詞	are	

She is playing the piano now.
「彼女は今、ピアノをひいています。」

～ing 形の作り方は、テキスト P 20 の表を使って説明する。特に間違いが多いと思われるものを下に挙げてみた。

動詞の～ing 形の作り方

swim → swimming (m を重ねて ing をつける)
make → making (e をとって ing をつける)
study → studying
(そのまま ing をつける。y をとって studing は×！)

2 現在進行形の否定文

作り方は、基本的には be 動詞の文と同じであることを確認。

現在進行形の否定文…be 動詞の後に not を入れる。

(肯) I am studying English now.
(否) I am not studying English now.

現在形の文との意味の違いにも触れておく。

3 現在進行形の疑問文

否定文同様、作り方や答え方は、基本的には be 動詞の文と同じであることを確認。

疑問文…be 動詞を主語の前に出す。

(肯) You are playing soccer now.
(疑) Are you playing soccer now?
(答) Yes, I am. / No, I'm not.

4 疑問詞を使った現在進行形の疑問文

疑問詞を使った疑問文の作り方(疑問詞が文頭、その後進行形の疑問文)と答え方に注意させる。

He is studying math now.

↓
What is he studying now?
※ math の部分をたずねたい
→ 「何を」という意味の what を文頭に

He is studying math now.

↓
What is he doing now?
「彼は今、何をしていますか。」
※ studying math の部分をたずねたい
→ 「何をしているか」とたずねる

※「何を～しているか」と進行形で尋ねられているので「～している」と進行形で答えなければならないことに気づかせる。

演習問題についての留意事項

- (4) 疑問詞が主語になる疑問文なので、答え方に注意させる。
- (3) like は進行形にしない動詞であることを確認。
- (6) be 動詞と一般動詞は1つの文でいっしょに使えないことを確認する。
- (4) 「する」=do の～ing 形, doing を入れる。
- (4) 何をたずねる疑問文にするとよいのかを、「公園で走っている」→「どこで走っているのか」のように考えさせる。
- (3) 疑問詞が主語になる疑問文の答え方に注意させる。
Mike is (playing the piano). の()の部分を省略して答える。